へき地・複式やまぐち

へき地・複式やまぐち第54号
令和５年９月１日　発行
発行所　山口市大手町2-18
山口県へき地教育振興会
TEL（083）922-0383
発行人
会　長　伊藤和貴
編集責任者
事務局　柴田眞弓
印刷所
株式会社　桜プリント社

全国へき地教育研究連盟ホームページ
URL : http://member.zenhekiren.net/
※ID・パスワードは事務局へお問い合わせください。

へき地・複式教育の充実・発展のために

―ふるさと山口に夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成―

山口県へき地教育振興会長（山口市長）
伊藤和貴

平素から、へき地・複式教育の振興に誠心誠意取り組んでおられます皆様に深く敬意を表しますとともに、心から感謝申し上げます。

さて、山口県内のへき地指定校及び複式学級を有する小・中学校は現在百三校で、全小・中学校数の二十五％にあたり、へき地・複式教育の充実への取組は、ますます重要になってくるものと考えます。

こうした中、本県においては、すべての市町立小・中学校に導入されているコミュニティ・スクールを核として、学校・家庭・地域が連携・協働し、社会総がかりでの教育を実現するため、「やまぐち型地域連携教育」の取組を推進し、子どもたちの豊かな成長につなげているところでございます。

中でも、へき地指定校や複式学級を有する学校においては、ふるさとへの誇りや愛着を育む地域学習に取り組むとともに、子どもたち一人ひとりのよさをみつめ、引き出し、伸ばしていく教育を力強く進めていただいております。

今年度は、「第五十三回山口県へき地・複式教育研究大会」を十一月十七日に周南市立三丘小学校において開催し、「様々なつながりから自分の考えを深めることができる児童の育成～対話を中心にすえた、認め合い深め合う学習指導の工夫～」についての取組を発表していただく予定でございます。

県内各地から多くの皆様に御参加いただき、研究協議を深める中で、へき地・複式教育はもとより、本県の教育がより一層充実していくことを祈念しております。

今後も、学校・家庭・地域が連携・協働した教育を推進し、ふるさと山口に夢や誇りをもって、未来を自ら切り拓く子どもたちの資質・能力を育んでまいりたいと考えておりますので、皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます。

令和５年度 研究主題

ふるさと山口に夢や誇りをもって未来の創り手となる子どもの育成

～様々なつながりから自分の考えを深めることができる児童の育成～

山口県のへき地・複式教育における努力点

1　地域の特性を生かした手づくりの教育活動の推進
2　多様な学習形態の工夫
3　一人ひとりのよさを発揮する児童生徒の育成

第53回 山口県へき地・複式教育研究大会

・期　日　令和５年11月17日㈮
・会　場　周南市立三丘小学校
・主　催　山口県へき地教育振興会
　　周南地区小規模校教育振興会
・後　援　山口県教育委員会
・研究テーマ
『様々なつながりから自分の考えを深めることができる児童の育成』
～対話を中心にすえた、認め合い深め合う学習指導の工夫～

13時15分～13時45分　受付
13時45分～14時30分　公開授業
14時40分～15時　アトラクション
15時～15時20分　開会行事
　　全体会
15時25分～16時40分　研究協議
　　閉会行事

第72回 全国へき地教育研究大会 兵庫大会

・期日　令和５年10月12日㈭
　　13日㈮
・会場　姫路市市民会館
　一日目（全体会）（分散会）
　　姫路市市民会館
　二日目（分科会）
　　兵庫県内（８校７会場）
・兵庫大会スローガン
「ひょうご五国から発信令和の日本型学校教育を先導するへき地教育の可能性」
※お知らせ
『兵庫大会』はハイブリッド型（参集型とオンライン型の同時開催）の大会です。

令和５年度へき地・複式校

校　種	全学校数	へき地校（％）	へき地校＋複式校（％）
小学校	273校	17校（6.2%）	95校（34.7%）
中学校	139校	６校（4.3%）	８校（5.7%）
合　計	412校	23校（5.5%）	103校（25.0%）

第53回山口県へき地・複式教育研究発表校紹介

周南市立三丘小学校

一　学校紹介

本校は、周南市東部、清流島田川の畔に位置し、山や田畑に囲まれた自然豊かな場所にあります。令和四年度に創立百五十周年を迎えた歴史のある学校です。

本年度の全校児童は三十九名で、学級数は一学年、二学年の単式学級、三・四学年と五・六学年の複式学級、特別支援学級の五学級あります。八年前の平成二十七年度に複式学級が開設され、変則複式を経て、中・高学年の複式が定着して今年で五年目になります。しかし、本校の複式学習のスタイルはまだ十分に確立しておらず、その定着をめざしています。

校舎全景・時習館（右）

学校目標は、「楽しさあふれる三丘小学校～将来、一人前の社会人としてたくましく生き抜くための基礎基本の定着～」であり、小規模校のよさと本校の強みである地域力を生かした教育活動に努めています。特色ある活動として、農業（芋、麦、ナス、米づくり）、伝統（人形浄瑠璃、論語朗唱）、福祉（老人福祉施設訪問、防災学習）があり、地域や熊毛学園と連携した取組を展開しています。熊毛学園とは、旧熊毛町にある本校、高水小学校、勝間小学校、大河内小学校、八代小学校と、熊毛中学校、県立熊毛北高等学校の五小学校、一中学校、一高等学校で構成する「熊毛学園」地域コミュニティ協議会であり、地域連携、学力向上、豊かな心育成、健やかな体育成の四つの部会で共通実践、連携強化を図っています。

三丘生まれの
ゆめかいじゅう
たまごん

二　研究の実際

㈠　研究主題について

本校は、研究主題「様々なつながりから自分の考えを深めることができる児童の育成～対話を中心にすえた、認め合い深め合う学習指導の工夫～」のもと、児童の対話力や思考力の向上をめざして研究を進めています。

一年次の昨年度は、三つの研究の視点、①対話の必然性を生み出す課題設定、②ＩＣＴを活用した深め合う対話、③自己の学びを再構築するまとめや振り返りに重点を置いた授業づくりを行い、研究主題の実現をめざしました。

二年次の本年度は、昨年度の成果と課題を踏まえて、以下の三つの視点を中心課題として授業改善を行うことにしました。

㈡　研究の視点について

①既習事項・生活経験・教材等をつなぎ、自分の考えをもつ一人学び

課題設定、学習方法、板書や掲示物等の工夫により、一人学びの場においてすべての児童が自分の考えを明確にもち、共学びに臨めるようにしていきます。既習事項や生活経験と教材をつなぎ自己内対話を行うことで、児童一人ひとりの有意義な学びの時間が確立されると考えています。また、一人ではなかなか考えをもてない児童への支援についても、教師のかかわり方（助言や教具）を工夫したり、ペアトークを行ったりするなど様々なつながりから自分の考えをもつことができるようにしていきます。これにより、共学びでの対話に深まりを生み出すことにつながるのではないかと考えています。

②互いの考えを受けとめ、新たな考えへとつないでいく共学び

共学びでは、対話を活性化させ、互いに認め合い深め合う学びを実現していきます。課題を焦点化するとともに、ＩＣＴの効果的な活用や学習活動、学習形態の工夫等を行い、自分の考えと他者の考えを共有・比較・分析しやすくすることで対話が重なり、多様な考え方ができるようになります。対話が活性化すると、互いの考えの類似点や相違点を踏まえ、自分の考えを再考することができ、まとめや振り返りにつながると考えています。

③自己の学びを再構築し、次時や他教科、生活につなぐまとめや振り返り

授業で得た学びを確かなものにするために、自らの学びを価値づけて自覚したり、共学びによって生まれた新たな考えを整理してまとめたりするなどの場面をつくります。めあてに対応したまとめを行い、自己の学びについて振り返ることで、学びを深めると共に、次時の学習や他教科、生活へのつながりが生まれると考えています。

これらの三つの視点を意識した授業に取り組むことで、様々なつながりから自分の考えを深めることができる児童の育成を図っています。また、これらの授業づくりと並行して、リーダー学習の確立をめざしています。教師が直接指導できない時間でも、自分たちで対話をしながら学習を進めていけるように、学習活動、学習形態、学習支援カード等の工夫を行っています。学習の目的、手順や方法などを明確にした授業づくりを行うことで、学習リーダーを中心とした主体的、対話的で深い学びの実現につながるのではないかと考えています。

リーダー学習の様子

三　おわりに

子どもたちは、毎朝全力あいさつで学校生活をスタートさせて、「わかる・できる楽しさ」「ひと・もの・ことと関わり合う楽しさ」「最後までやり抜く楽しさ」が実感できるよう、全力で学習に取り組んでいます。ぜひ、そんな子どもたちの姿をご参観いただき、多くのご示唆、ご教示をくださいますようお願いいたします。

へき地校・複式学級のよさを生かす

ゆたかな串を未来へつなぐ　山口市立串小学校

一　はじめに

本校は、山口市の山間部徳地地域に位置する極小規模校です。千石岳を仰ぐ本校の校区は、串川沿いに見られるホタル、四季折々の景色が美しい天神の滝、そして東大寺再建に尽力された重源上人ゆかりの法光寺など、すばらしい自然や歴史的遺産に恵まれています。

学級数は複式一クラスで、児童数は三人です。子どもたちは、自然の中で伸び伸びと学校生活を送っていますが、小規模校ゆえの、様々な人と関わる経験が少ないという課題が見られます。

そこで、本校では、以前から串地域のゆたかな人材を巻き込んで教育活動に取り組んできました。

二　ゆたかな串を未来へつなぐ

タイトルにもあるこの言葉。これは、串地域の活力と魅力あるふるさとづくりをめざして活動している「ゆたかな串を育てる会」のスローガンであり、本校の学校教育目標のサブタイトルでもあります。子どもたちは、育てる会をはじめとするたくさんの地域の方に支えられながら成長してきました。コロナ禍で活動を制限されることもありましたが、今年度は四年ぶりに地域と合同で運動会を行うことができました。

また、今年は、六年生二人にとっては小学校生活最後の一年となります。そこで、子どもたち発信で卒業に向けて自分たちにできる恩返しをしていこうと思っています。

一つ目は、毎年六月に行われる地域行事「ホタルの夕べ」への参画。昨年までは参加するだけでしたが、今年は裏方として力を発揮しました。参加された方に、山口市の初夏の風物詩であるホタルかご作りを教えたり、柏餅作りの手伝いをしたりするなど、子どもたちにもできることを通して貢献することができました。

二つ目は、「串っ子タイム」。これは総合的な学習の時間を使い、子どもたちが主体となって、地域の方と共に、体験活動をしたり学んだりする場を作るというものです。一学期には、徳地地区の伝統である紙すきを地域の方に体験していただいたり、一緒に徳地の歴史や防災について学んだりしました。今後も年間を通して、様々な活動を計画しています。

三　おわりに

今年は、様々な人との関わりの中で一つ一つ思い出を紡ぎ、地域の方と共にゆたかな串を未来へつないでいける特別な一年にしていきたいと考えています。

４年ぶりの地域との合同運動会

児童の育成を「チーム福賀！」で　阿武町立福賀小学校

一　はじめに

本校は、阿武郡阿武町の山間部に位置する全校八名の小規模校です。学校の近くには、「伊良尾山」があり、水田が広がり、美しい自然に囲まれています。平成二十七年度末に福賀中学校が閉校し、平成二十八年度から福賀地区で唯一の学校となりました。そのため学校教育に対する地域・家庭の関心も高く、「チーム福賀」の一員として、子どもたちの育成に協力していただいています。

二　「チーム福賀」の取組から

本校の学校教育目標は「夢にむかってたくましく生きる福賀っ子の育成」です。子どもたちは素直で言われたことには積極的に取り組むことができます。また、授業や日々の生活の中で、自分の振り返りをしっかりと表現することができます。しかし、大人数の中に入ってしまうと失敗をおそれ、自分の思いを表現しきれないという課題があります。こうした課題を子どもたちに関わる全ての大人（学校・地域・家庭）が「チーム福賀」として共有し、児童が将来生きていくための必要な力を付けるため、特色ある教育活動の充実に力を入れています。

①　緑化活動

本校は、長年学校緑化に力を入れています。子どもたちは、毎週の中間時間のフラワータイムや年に数回のグリーンタイムに、積極的に花の世話を行っています。また、三年前からワクワクハウスという、緑のカーテンで囲まれた秘密基地作りを親子で行っています。その他、地元の高校生が作っている苗を一緒に花壇に植えたり、森林体験学習を地域の方と行ったりしています。こうした取組が評価され、令和４年度全日本学校緑化コンクールにおいて全国一位にあたる特賞に選ばれました。「小さな学校が日本一に！」これは子どもたちにとって大きな自信につながりました。

②　ふるさと太鼓

子どもたちの地域貢献として、様々な場に出向き、ふるさと太鼓の演奏を行います。ふるさと太鼓の指導は学校の教職員だけでなく、卒業した中学生を含め、地域からも指導に来ていただきました。指導後、自分の課題や成果を言葉で発表し、次の練習に取り組むことで、自信をもって本番の発表に取り組むことができています。

三　おわりに

福賀の子どもたちは、「チーム福賀」の皆さんとの教育活動を通して、自分のふるさと福賀のよさに気付くとともに、自信を深めながら成長しています。今後も「チーム福賀」で子どもたちの成長を支えていきます。

令和５年度ワクワクハウス作りから

地域に元気を届ける学校をめざして

岩国市立川上小学校　校長　岩崎浩一

本校は、周東町中心部から少し離れた田園風景の中にある全校児童六名の学校です。学校、保護者、地域が深い絆でつながり合うことで地域全体に元気を届ける学校をめざしています。

本校の特色は、児童がとても「一生懸命」ということです。例えば、運動会の時には、一輪車でさまざまな技に挑戦します。今年は、背の高い「ロング一輪車」に六年生だけでなく四年生も挑戦し、見事に乗りこなすことができました。上級生が下級生に対して丁寧に乗り方を教えている姿はとてもほほえましいものです。当日は、観覧している保護者や地域の方たちから大きな拍手をいただきました。

今年度は、「地域の産業や文化に学ぶこと」をテーマに「米作り」に挑戦することと、校区内にある「鮎原剱神社」の伝説を劇にして地域の方々に発表することを目標に活動をしています。秋には、地域の方を学校に招待して、収穫祭と劇の発表を行う予定です。まだ端緒についたばかりですが実りの秋がとても楽しみです。

一輪車競技の一場面

「大島が大好き！」ふるさとに学び、ふるさとを誇る島中っ子の育成をめざして

周防大島町立島中小学校　校長　川西真理

島中小学校は周防大島のほぼ中央に位置し、校舎の三階からは北に白砂青松の白鳥が浜、南には大島富士とも呼ばれる嵩山が一望できる豊かな自然に恵まれた学校である。

本校では、総合的な学習の時間を、テーマを「海」とする「blue year」、「山」とする「orange year」を隔年で行い、地域の魅力を探求している。

「orange year」の昨年度は年間を通したみかん園での学習、みかんスイーツの考案、地域の名人訪問等、地域の方々の協力を得て充実した探求学習を行うことができた。中でも、学習のまとめとして作成した「三十秒CM」は、地域の魅力を伝えようとする子どもたちの輝きに溢れ「TYSふるさとCM大賞『優秀賞』」という思いがけない結果を呼び込んだ。「大島が大好き！」自信をもって言える子どもたちを育てることが最大の地域貢献と考え、地域とともにある学校づくりを推進していきたい。

ふるさとCM大賞「優秀賞」受賞

ドキドキ わくわく

地域とつながる伝統文化「二俣瀬結太鼓」

宇部市立二俣瀬小学校　校長　安東知彦

鷹ノ子山の麓、厚東川のほとりに位置する本校は豊かな自然に囲まれています。恵まれた教育環境の中、子どもたちは地域の方々と一緒に様々な活動を行っています。

その一つに、本校の特色ある教育活動「二俣瀬結太鼓」があります。地元の「二俣瀬樽太鼓の会」の方の指導を受けています。活動を始めたころは五・六年生が中心でしたが、児童数の減少により、三年生以上の子どもたちが真剣な表情で練習に励んでいます。太鼓に使用している樽は、学校近くの酒造会社から提供していただいたもので、ふたを堅い板に張り替えて演奏しています。

以前は多くの発表の場がありましたが、コロナの影響もあり今は、「小学校・地区合同運動会」と「地区文化祭」に向けて練習を重ねています。

今年度、本校は創立百五十周年という節目の年を迎えます。地域連携の象徴である「二俣瀬結太鼓」の活動を通じて、ふるさと「二俣瀬」を愛する子に育ってほしいと願っています。

二俣瀬結太鼓

保護者の方々、地域の方々と共に

下関市立室津小学校　校長　宅野雅志

海と山に囲まれた自然豊かな環境の中、温かい保護者の方々、地域の方々とふれあう活動を通して、室津小では心豊かな子どもたちが育っています。

今年のふれあい運動会は、四年ぶりに保護者や地域の方々と一緒に競技を行いました。玉入れでは子どもたちの人数を上回る方々に参加していただきました。また、地域に伝わる室津音頭でも、多くの方々とトラックいっぱいに広がり笑顔で一緒に踊ることができました。

この他にも芋の苗植え、米作り、昔の遊びを行う集会等様々な場面で、多くの保護者の方々や地域の方々が来校してくださいます。

「行きたい学校、行かせたい学校」となるよう、これからも多くの支えてくださる方々と共に歩みたいと思います。

ふれあい運動会